

# 「社会連携系職員養成プログラムレベルⅠ「地域特性論」 -地方創生・地域資源を活用した地域の活性化-」

愛媛大学 社会連携推進機構  
教授（地域連携コーディネーター）  
坂本 世津夫

急速な人口減少、超高齢化社会、従来型産業の衰退と、現在の日本は（日本の地域社会は）大きな転換点にさしかかっている。それを打開させる為に、「地方創生」が叫ばれているが（国では、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう、まち・ひと・しごと創生本部を設置している。そして大学には、自治体との連携を強化して打開策に取り組み、地域課題に対応できるように大学改革が求められている）、具体的にどう対応すれば良いのか、国も自治体も大学も打開策を見いだせていない状況にある。今回の講義では、地方創生の意味を理解して、地域が本来持っている資源を如何に活用して地方創生を図るか、教職員は如何にアクションすれば良いのかについて講義を行う。地方創生、地域資源を活用した地域の活性化手法のヒントになればと考えている。

## 地方創生—まち・ひと・しごと創生本部

政府は、人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう、まち・ひと・しごと創生本部を設置した。

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/>

急速な人口減少、超高齢化社会、従来型産業の衰退に如何に対応していくのか、地方における大学の役割が問われている。

## スマート革命—ICTの利活用

最近、再び「イノベーション」ということが言われるようになった。イノベーションとは、端的に言えば技術革新、創造的破壊である。今からちょうど百年前に、経済学者のシュンペーターが提唱した概念である。ICTを「戦略的」に活用して、既存の仕組みを見直し、革新（創造的破壊）していくこと、**新結合（新しい組み合わせ、新しい組織）**を見つけることが重要なのである。その取り組みを、いま展開しなければと考えている。それは、ICTによる地域イノベーションである。

日本における情報化社会の方向性については、今年の総務省「情報通信白書」を是非ご覧いただきたい。実は、4年前から情報通信白書の編集にも関わってきた。今年の白書には、「スマートICT」の戦略的活用でいかに日本に元気と成長をもたらすか、が書かれている。情報通信白書は総務省のホームページからダウンロードできる。オープンデータと言って、政府等が保有する様々なデータは利活用できるように順次公開される方向で整備が進んでいる。このような情報をフル活用して新たな社会を構築しなければならない。それが、「スマート革命」である。スマート革命は、単にスマートフォンを活用することではない。

他にも、「ビッグデータ」の活用がある。ビッグデータとは、ICTの進展により生成・収集・蓄積等が可能・容易になった多種多量のデータのことである。フェイスブックやツイッターで発信される内容、マルチメディア機器が生成するデータ、センサーで取得されるデータ、位置情報（GPS）など、多種多様なデータの集合体がビッグデータである。防犯カメラの映像などもその一つである。そのようなデータが、高速ネットワークと検索プログラム、高度な解析プログラムのお陰でフル活用できる時代になった。自治体も、これから真剣にICTの利活用を考えてなければならない。

情報通信白書 平成 27 年版

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/>

**ICT は、思考の道具（ツール）である。**

考える力を養う。

**ICT は、処理の道具（ツール）である。**

新たな処理方法を考える。

**ICT は、コミュニケーションの道具（ツール）である。**

新たな結合を考える。

新結合  
↓  
イノベーション

## イノベーション（技術革新＝創造的破壊）

### ブロードバンドの活用

既存の仕組みを常に見直し革新（創造的破壊）していくこと。

新結合（新しい組み合わせ）を見つけること。

#### 1.新しい財貨

すなわち消費者の間でまだ知られていない財貨あるいは新しい品質の財貨の生産

#### 2.新しい生産手法

すなわち当該産業部門において実際にまだ知られていない生産方法の導入

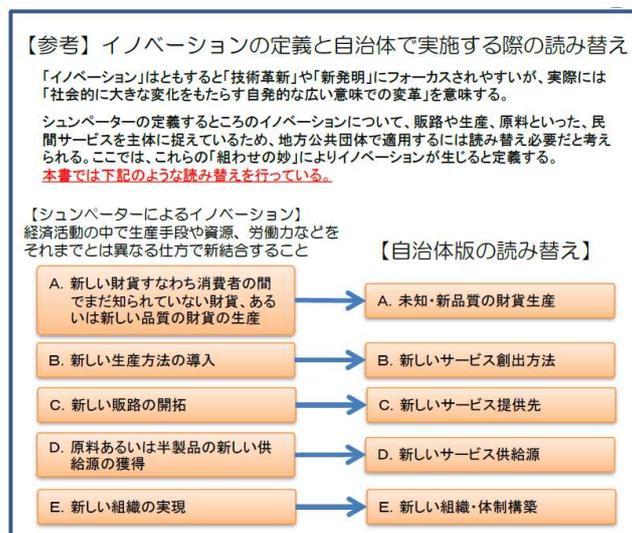
#### 3.新しい販路の開拓

すなわち当該国の当該産業部門が従来まだ参加していなかった市場の開拓

#### 4.原料あるいは半製品の新しい供給源の獲得

#### 5.新しい組織の実現、すなわち独占的地位の形成あるいは独占の打破

シュンペーター『経済発展の理論』 1912年 世界恐慌 1929年  
『シュンペーター 経済発展の理論』 伊達邦春、玉井龍象、池本正純 著 有斐閣新書



一般財団法人全国地域情報化推進協会「地域ICTイノベーション・ガイドブック Ver.1.0」より

### ブロードバンド 環境

高品位な画像（映像）や音声、様々な情報を双方向にやりとりすることが可能となる。

中山間（田舎）の産業・ビジネスを大きく変える可能性がある。

テレワークなど新たな就業形態も可能となる。

コミュニティのあり方が変わる。

その他にも。

# ICT利活用による地域活性化

## 地域活性化のポイント

故郷（自分の住んでいる地域）を語れる（誇りをもつ・好きになる）  
世代を越えて、地域が一体となる  
自ら、参加する  
人材を育む（人材育成）  
他地域と連携する  
情報発信

### ●ブランド＝地域価値の要素

#### 1. 気象

流氷、雪、霧、雨、爽やかな風、厳しい寒さ、空気のおいしさ、青い空、巻雲、翳雲、朝日、夕日、夕焼け、満月、三日月、星空、天の川、流星、蜃気楼など

#### 2. 自然

海原、入江、絶壁、磯、砂浜、砂丘、島、岬、火山、温泉、溶岩、特色ある山、見晴らしのよい丘、峠、大河、川原、溪流、滝、せせらぎ、湖、沼、大木、ブナの森、苔むす岩、洞窟、湿原と植生、花の群落、鶴、白鳥、かるがもなど

#### 3. 人文的自然風景

棚田、菜の花畑、れんげ畑、ひまわり畑、果樹園、竹林、杉林、檜林、茅葺き、水車、水路、土橋、生け垣、沿道の花、花園、庭園、枯山水、雪囲い、雪吊り、牧場、漁港、網干し場、魚市場、猫、飼犬、飼象、馬、牛など

#### 4. 構築物

家並み、白壁、黒壁、蔵、迷路、特色ある建築物、寺院、神社、教会、宮殿、劇場、ホテル、美術館、博物館、城塞、塔、煙突、記念碑、赤煉瓦、石橋、釣り橋、鉄橋、橋梁、広場、公園、運動公園、緑地、カスケード、港、灯台、堀割、運河、魚釣場、テーマパーク、登り窯、温泉、遺跡など

#### 5. ストリート・ファニチャーと移動物

美しい広告塔、ショーウィンドー、ベンチ、街路灯、彫刻、壁画、時計、屋台、標識、自動車、電車、新交通、自転車、人力車、駕籠、馬車、漁船、大漁旗、旗、ヨット、観光船、観覧車、窓辺の花など

#### 6. イベント

祭り、博覧会、見本市、スポーツ大会、会議、日曜日市、灯籠流し、花火、音楽祭、人形劇、演劇、歌謡祭、彫刻展、国際コンペ、カーニバル、行進、縁日、踊り、民謡など

#### 7. 景観

自然と人工物の全体を統合したもの、色、音、光、香りを加えたもの

#### 8. 雰囲気

風格、清潔さ、賑わい、活気、不思議さ、驚き、落ち着き、静けさ、安らぎ、方言、感動、人の温かさ、もてなし、親切など

#### 9. 人間

服装、帽子、化粧、歩き方、カップル、大道芸人、一芸ある人、人材、国際人、他人の受入可能な人、ガイド、笑顔、ホスピタリティ、子どものキラキラした目など

## 10. 飲食物

酒、地ビール、そば焼酎、ワイン、ミネラルウォーター、果汁、郷土料理、名物料理、石臼そば、味噌、豆腐、菓子、果物、チーズ、ソーセージなど

## 11. 特産品・地場産業

和紙、水引き、凧、木蠟、家具、将棋の駒、碁盤、独楽、竹細工、藁細工、農産物、織物、硝子製品、石製品、陶器、鋳物、洋食器、さまざまな工業製品など

## 12. 物語・事件

史跡、宿場、歴史的イベント、小説ドラマの舞台、創作の場、作家の住まい、溶岩流など大災害の跡、鉱山跡、伝説、おとぎ話など

## 13. 独自の方法

コミュニティ、ゴミ収集、リサイクル、住民参加、NPO、市民活動、生涯学習、自治体行政運営、バリアフリー、健康維持、福祉、高齢者施設など

## ●地域価値の大分類

### 1. 風土的価値

気象、自然など

### 2. 歴史的価値

遺産、事件、物語、記憶など

### 3. 人の営みの価値

物、仕事（シゴト）、生活（クラシ）、仕組み、イベントなど

## 要素の評価ポイント

評価できる要素は、挙げればキリがないし、細分化すれば無数になる。これらの要素は項目だけだから、そえをどういう観点から評価するかが重要である。

評価ポイントとしては、1. 美しさ 2. スケール 3. 特異性 4. 驚き 5. 面白さ 6. 生き生きとした感じ 7. 気持ちよさ 8. 親しみやすさ 9. 静けさ 10. 味わい深さ 11. 風格の高さ 12. 感動させられるもの などある。

以上、『まちづくりの実践』 田村明著 岩波新書 615 より

## 地域資源の活用方法

あらためて認識した地域資源を本当に活用するには、しっかりと考える（資源の考察・観察・分析をする）必要がありますが、それと同時に色々な資源や取り組みを繋げていく、**有機的に連携させる「知恵」**が必要である。

その為には、

- 1) **ストーリー性が必要**—繋がり（連携）・広がり  
単なる、一資源、一地域だけを考えるのではなく、エリア全体の中での位置付けや連携が必要である。
- 2) **出来るだけ多くの生活者が関わる**  
いくらまわりが活動し、仕掛けても、本来の生活者の意識（認識）がなければ、本当の活性化には繋がらない。
- 3) **自分自身のもっている地域資源を再認識し誇りを持つ**  
生活者の多くが、自らのもっている地域資源を再認識し、誇りを持つ（非常に重要）ことにより、より良い資源にすることが可能となる。文化的な厚みも増してくる。

## アクションプラン（ストーリー性の重視）

### 情報発信

色々なメディアを活用する（メール、Web、ブログ、Twitter、Facebook など）  
**ソーシャルメディア** ロコミも効果的  
誰に対しての情報発信かを明白にする（相手が見えている＝市場が見えている）  
マーケット把握（マーケティング・リサーチも重要である）

情報の質を向上させる—**受け取る側を意識した情報づくり**と発信  
シンプルがベスト

ラジオ・テレビなどのマスメディアを活用（ストーリー性が重要）  
旅行会社の広告（ストーリー性が重要）・・・モデルコース  
Web—双方向の媒体にする必要がある  
単なる一方的な情報発信では効果がない  
情報を受け取る側の「心（心理）」を把握した上での情報発信  
ブログ、Twitter、Facebook を活用する（**ソーシャルメディア**）  
SNS【Social Networking Service】

写真集・書籍・雑誌などを活用する  
動きのない情報＝活字・写真による情報発信も非常に重要である  
従来の情報発信では、文章・画像の質が高くない→**より高質な情報を発信**する  
受け取る側（ターゲット）を見極める

新たな情報機器の活用

**iPad、iPhone、スマートフォン、タブレット端末** 等

## コミュニケーション力の向上

地域の活性化を進める上で一番重要なことは、地域に暮らしている人々のコミュニケーション力を如何に高めるかである。さらには、地域内だけではなく他地域とのコミュニケーション力を高めることが重要である。

### コミュニケーション能力（私の定義）

自分の気持ちや考えを、的確な表現と分量で伝えることのできる能力  
相手の意図や意識を読み解く能力

### 聞く耳を持つ（見る目を持つ）

自然や景観などと対話することも重要

## コミュニケーション・デザイン

### 「高速ネットワーク社会と人間の思考」

コンピュータ処理は、精神の「データ処理」（作業）であって、精神が思考している処理ではない。注意深い努力がなければ、単なるデータ処理にすぎない。機械が情報を処理しているときにやっていることと、精神が思考しているときにやっていることとのあいだには大きな違いがある。**重要な事は、精神の思考である。**

参考 T・ローザック 『コンピュータの神話学』

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/nkaoru/Cult.html>

### 重要なこと

「情報化」は非常に重要なテーマである。情報化時代に対応した社会環境を作っていかなければならない。また、それに対応した人材の育成も重要な課題である。しかし、**一番重要なことは、リアルな空間、リアルな思考と判断である。**「百聞一見にしかず」と言われるように、いくらインターネット検索を駆使して地理情報や写真、他人が作成した資料などをかき集めても、ただ一回の、**自分自身のリアルな体験**に勝ることはないであろう。

要は、インターネット上での情報と、旅行などのリアルな体験情報の間には、補完できない大きな差があることを認識しなければならない。ICTがあれば、何でもできると思っはいけない。ICTの利活用は、あくまでも補完手段であることを肝に銘じる必要がある。いつも感じるのであるが、海外旅行に行く前に、現地の情報をいくら検索して調べても、あまり頭の中には入らないが、海外旅行から戻ったあとに検索すると、どんどん知識として蓄積されていく。それは、使える知識であって、単なる知識ではない。この差を理解することが重要であると考えている。**コンピュータでいくら便利になっても、精神に思考をさせないと、どんどん退化していくのである。**

## 平成 26 年度「地（知）の拠点整備事業」

本事業は、大学等が自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています。

## 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

文部科学省では、平成 27 年度から、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」を実施します。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kaikaku/coc/](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/)

# 愛媛大学COC事業

**CENTER OF COMMUNITY** 地域の未来をステークホルダーと共に創る 実践的人材の育成 えひめ地(知)の拠点整備事業(COC)

**愛媛大学が変わる、地域が変わる。**



愛媛大学 EHI ME UNIVERSITY  
地(知)の拠点

### 愛媛大学COC事業体制 愛媛大学地域共創コンソーシアム

地域共創コンソーシアムは、「愛媛大学地(知)の拠点整備事業(COC事業)」において、本学及び愛媛県内の関係機関が一体となり、愛媛県の産業の活性化、イノベーションの創出及び地域を担う人材の育成に貢献することを目的とした組織



**経済団体**  
愛媛県工業振興協会  
愛媛県商工会議会  
愛媛県中小企業振興会  
愛媛県建設協会

**金融機関**  
伊予銀行 愛媛銀行 愛媛信用金庫

**愛媛県**  
市 & 町  
COCサテライト拠点(10箇所)  
松山市 今治市 宇和島市 八幡浜市 新居浜市 西条市 四国中央市 喜多市 東温市 愛媛町

**愛媛大学**  
地域共創コンソーシアム会議  
コンソーシアムの運営に係る事務等を担う  
COC企画運営部  
事業計画の策定、実施、企画調整の推進等を行う

**地域連携部**  
社会連携推進課  
公開講座を推進する

**地域課題研究部**  
社会連携推進課  
公開講座を推進する

**教育プログラム部**  
社会連携推進課  
公開講座を推進する

**教職員能力開発部**  
社会連携推進課  
公開講座を推進する

**COC内部評価委員会**  
**COC外部評価委員会**

**COC事業をバックアップする8つのセンター**  
愛媛大学における多岐にわたる教育・研究の成果等を積極的に活用して社会連携活動を推進し、地域の発展に貢献します。

- 知的財産センター**：本学における学術的財産を知的財産として、知財戦略、権利取得・運用、地域社会の発展に貢献します。
- 産学連携推進センター**：産業界との共同研究等を推進することにより、本学の教育・研究の発展に資し、地域の発展に貢献します。
- 地域創成研究センター**：地域に関する学際的な研究及び教育を行い、地域創成に大学が果たすべき役割を究明し、地域の活性化に貢献します。
- 防災情報研究センター**：自然災害と防災情報の融合により防災情報の提供・発信、防災・減災のための学術的貢献を推進します。
- 南予水産研究センター**：水産に関する総合的研究施設として、南予水産の発展に資し、地域社会の発展に貢献します。
- 植物工場研究センター**：植物工場の建設技術の提供から、実用・商用に資する研究・開発まで、地域社会の発展に貢献します。
- 紙産業イノベーションセンター**：紙産業に関する学際的な研究及び教育を行い、紙産業の発展に資する学術的貢献を推進し、地域の発展に貢献します。
- 食品健康科学センター**：食品の機能性をトータルにおいて解明する学際的な研究施設を推進し、人々の健康維持に貢献します。

愛媛大学COC企画運営部事務局  
〒790-8577 松山市文京町2番(愛媛大学社会連携推進機構内)  
TEL 089-927-8964 FAX 089-927-8820  
E-mail coc@stu.ehime-u.ac.jp



## えひめ地(知)の拠点整備事業(COC) 地域の未来をステークホルダーと共に創る実践的人材の育成

**愛媛県の解決すべき課題**

- 産業の活性化
- 地域イノベーションを創出する人材の育成

●学生教育 ●産学連携 ●産学連携 ●産学連携

■ 文部科学省COC事業とは

「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」は、大学等が自治体を中心に地域活性化を推進し、全国的に地域を牽引して教育・研究・社会貢献を進める大学等を支援することで、課題解決に資する優秀な人材や技術、技術が育ち、地域コミュニティの持続的な存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています。

■ 愛媛大学COC事業とは

愛媛県の産業活性化や地域イノベーションを創出できる人材の育成を目的として「地域共創コンソーシアム」を設立し、大学全体で地域志向教育・研究・社会貢献活動に取り組んでいます。また、愛媛大学と自治体が連携して県下10カ所にCOCサテライト拠点を設置し、地域のステークホルダーと協働して地域課題解決に取り組む実践的な人材を育成します。地域志向教育では、一年次学生全員を対象とする地域学習「えひめ学」を必修化し、サテライト拠点では課題解決型学習と並行して学生人財の育成を行っています。さらに、地域産学型の研究センターを中核として地域イノベーションの活動を推進し、地域のステークホルダーと大学が協働して地域活性化に取り組む体制を定めます。

**愛媛大学地域共創コンソーシアム**

大学・地方自治体・経済団体・金融機関等で構成

**学生教育**

- 全学必修科目「えひめ学」の新設
- 学生主体の地域学習

**リカレント教育**

- COCサテライトの新設
- 地域課題対応7講座

**研究・社会貢献**

地域産学連携活動の活性化：地域イノベーションの創出

**[COCサテライト拠点]**



松山サテライト MATSUYAMA SATELLITE  
八幡浜サテライト HAHNABAMA SATELLITE  
西予サテライト SEIYO SATELLITE  
宇和島サテライト UWAJIMA SATELLITE  
愛南サテライト ANAN SATELLITE  
東温サテライト TOON SATELLITE  
今治サテライト IMABARI SATELLITE  
西条サテライト SAJIYO SATELLITE  
新居浜サテライト NIIGAHAMA SATELLITE  
四国中央サテライト SHIKOKUCHUO SATELLITE

愛媛県 各市区

**実践的人材の輩出**

- 地域の人々と協働し、コミュニケーションする能力
- 地域の多様なステークホルダーをコーディネートする能力
- 地域での活動に持続的に関わることのできる忍耐力とリーダーシップ
- 地域課題の解決に繋がるアイデアを発想して取り組む行動力

**FD/SDプログラム(教職員能力開発)**

FD/SDプログラムを通じて、地域を牽引する大学である必要を認識し、地域活性化に貢献するための同時並行に、社会連携推進課の協力体制を構築します。

- FD(ファカルティ・ディベロップメント) 教職員能力開発
- SD(スタッフ・ディベロップメント) 職員能力開発



Start 地域、行政 大学の連携・体制の連携

Plan 課題の洗い出し、プロジェクト開始

Do プロジェクト実施、ステークホルダーとの連携

Check 自己評価、第三者からの評価

Act 改善し、プロジェクトを継続する

<http://ehime-coc.jp/>